

退職のご挨拶

農大稲花小や東京農業大学世田谷キャンパス周辺でも、木々の若葉が目優しく、桜をはじめとする様々の花の開花もうれしい季節となりました。4月になりますと、農大稲花小第7期生となる新入生が入学してまいります。

2018年12月の開校式に続き、2019年4月に挙行されたはじめての入学式以来、6年間に亘り、農大稲花小の初代となる校長として勤めてまいりましたが、2025年3月31日をもって退職することとなりました。

当時、東京都23区内では59年ぶりの私立小学校として開校した本校は、東京農業大学の創設者である榎本武揚公の言葉に基づく「冒険心の育成」を教育理念とし、五感を、そして体験を大切にしながら、さらに学校法人東京農業大学の多様な教育的資源を活用しながらの教育を行うことを目指してきました。そして、この6年間、大学教職員、学生・院生・留学生、校友(卒業生)、企業や団体の皆様による体験型の授業、毎日の英語授業、食育の要となる自校調理式の給食など、東京農業大学の小学校である本校ならではの教育を展開してきました。東京農業大学世田谷キャンパスだけでなく第一高等学校のビオトープ、「食と農」の博物館、厚木キャンパス、伊勢原農場、富士農場への校外学習、そして、山梨県小菅村、北海道オホーツクキャンパス、さらには宮古島亜熱帯農場での宿泊学習は、子どもたちの学びを深め、成長を大きく促すものです。希望する子どもたちはオーストラリアの小学校へ10日間の短期留学にも参加しました。そしてこのように本校の教育を他校では追従できない特色あるものとするのができたのは、学校法人東京農業大学の絶大なご支援あったことでした。本校の教育理念を具現化する子どもたちの学びを応援していただきました学校法人東京農業大学のご関係者をはじめとするたくさんの皆様に、心から御礼を申し上げます。様々な困難がある中、本校教職員と心を合わせて新しい学校づくりに邁進できたことも幸いでした。

本年3月13日には、本校における初の卒業証書授与式が挙行されました。本校における最初の卒業生は、多くが東京農業大学第一高等学校中等部へ進学し、あるいは、それぞれの希望する中学校へ進学していきました。これらの子どもたちは、友だちとともに学びを深め、確かな学力を身に付けただけでなく、非認知的能力である「10の能力」の獲得を目指す授業の中でも力をつけました。本校を卒業していった子どもたちは、「冒険心」と「10の能力」を身に付けただけでなく、その学びの成果として将来は、食や農の理解者、農業に対する力強いサポーターにもなることと信じています。

一方、大学教員・研究者から転じて小学校校長となった私自身としては、至らぬことも多くあったかと内心忸怩たるものがあります。たくさんのお子どもたちをお預かりする責任の大きさを一時も忘れることのない毎日でもありました。しかし、本校の教育理念に賛同して実績もなかった新設校である本校を選択し、本校の方針に寄り添ってくださった保護者の皆様の存在に励まされた毎日でもありました。学校や校長をご信頼いただき、学校と保護者の皆様とが同じ方向を向いて子どもたちのために力を合わせることができなければ、本校の教育や運営はもっと困難なものとなったことでしょう。校長として新しい小学校文化の創造に取り組むことができたのは、保護者の皆様のご理解によるものであり、感謝するところです。東京農業大学教育後援会としての応援にも深く感謝申し上げます。

さて、農大稲花小の子どもたち一人一人の顔を思い浮かべますと、子どもらしいかわいらしさは

言うまでもありませんが、それぞれのもつ才能の多様なことには驚かされるばかりです。知力・体力・精神力に優れた本校の子どもたちは日々成長し、しばしば今までとは異なる新しい力、新しい姿を見せてくれます。ときに悩み、迷い、停滞する姿を見ることもあります。これも成長の一過程なのでしょう。また、ご家庭で手塩にかけて育てられた子どもならではの素直さ、優しさを失わないで成長してほしいと願っています。子どもたちには本校で、また、卒業後も自らの夢の実現に向かって学び続け、育ち続けることを期待しています。そして、自らの幸せだけでなく、自分より恵まれない立場にある人、つらい立場にある人、困っている人、悲しんでいる人に目を向け、世の中を少しでもよくするためにも、自分の力を使える人に育つことを願っています。自分の力をそのように使ったときこそ、子どもたちの心は本当の幸せを実感することができると信じるからです。そしてそういう時にはじめて、本校で培った冒険心が役立ったと確信できると考えています。

4月1日から本校は、杉原たまえ新校長を迎えます。杉原新校長もまた本校の教育の理念を深く理解するだけでなく、東京農業大学副学長としても大学と本校の良好な関係を維持し、教育に反映・発展させることができる人物です。子どもたちへもやさしい眼差しを注ぐことでしょう。このように信頼できる新校長に本校の運営や教育をバトンタッチできることに安堵し、喜んでいます。そしてこれからも、農大稲花小の発展と子どもたちの成長を、新しい視点から見守らせていただくことを楽しみにしています。

改めまして心からの感謝とともに、お世話になった皆様のご多幸、子どもたちの成長を祈念して退職のご挨拶とさせていただきます。

2025年3月31日

東京農業大学稲花小学校
初代校長 夏 秋 啓 子